

# 新規参入者受入体制整備と栽培技術支援

令和5年度 (広域 担い手)

## 1 活動のねらい

- ・地域農業の担い手確保対策として、関係機関と連携し地元での就農相談会や農業体験ツアーを開催し、新規参入者受入体制の整備を進める。
- ・新規参入者から技術支援、管理技術の情報提供を求められていたため、北斗市、JA新はこだて、地域第一係と連携し巡回指導、経営相談等を行い地域への定着を図る。

## 2 活動内容と結果

### ◆「おしま農業のお仕事相談会」の継続開催

- 働く意欲のある人が、農業を選択しやすいようハローワーク函館を開催場所とした。
- 各市町が参加しやすいよう、開催時期を9月、11月、2月とした。
- JA新はこだて協力の下、1日バイトアプリの紹介も行った。



### 結果

相談者は17名となった。9月の来場者のうち2名は、後日「おしま農業体験ツアー」へ参加し、地域の農業を理解する機会につながった。

1日バイトアプリへの関心は高く、短時間でも農業で働きたい人はたくさんいると考えられた。

### ◆第2回「おしま農業体験ツアー」の開催

目的：農作業を通じて就農に向けた興味や関心を深めてもらう

これまで実施してきた就農相談会の結果から、渡島管内へ新規参入を希望する道南出身者が多いことがわかった。北斗市・渡島総合振興局と連携し、農業を始めやすいトマト・ねぎの農作業体験ツアーを実施した。

○関係機関によるオリエンテーション（各種支援制度、作物の栽培、就農モデルケース等について）



○受入農家による作業指導（左から トマトのへた切り、葉かき、ねぎの根切り）



体験後：



農業者を志す意欲は高まり、「新規就農を前向きに考えたい」との声が聞かれた

◆新規参入者経営安定・定着支援

○新規参入者からの、就農後の生産技術習得に対するサポートへの要望が高かった。

○北斗市、JA新はこだて、地域第一係と連携し、市内の就農1～6年目の6名の個別巡回を定期的に行った。各作物の生育や作業の状況を確認し、苗の徒長防止、病虫害防除、灌水等の管理について指導した。



今年の営農から習得できたこと



「出荷時期を遅らせることによる単価の向上」や「ねぎを太くする方法」

☆毎月顔を合わせて話をすることで、何でも相談できる相手がいるという安心感になっている。

### 3 今後に向けて

「おしま農業のお仕事相談会」や「おしま農業体験ツアー」の開催方法について検討する。  
新規参入者への個別巡回を継続する。